

2.7.3 個別事業所の情報公開

(1) 全回答者及び会場別回答者

個別事業所の情報公開を「必要と思う」と回答した者は、全体で66%（800名）と高い割合を示している。会場別では、企業の参加者が多かった刈谷で54%とやや低く、行政の参加者が多かった札幌では74%と高い割合を示している。「必要ないと思う」との回答は、全体で18%（221名）となっており、会場別では、刈谷（24%）、川崎（22%）で若干高くなっている。

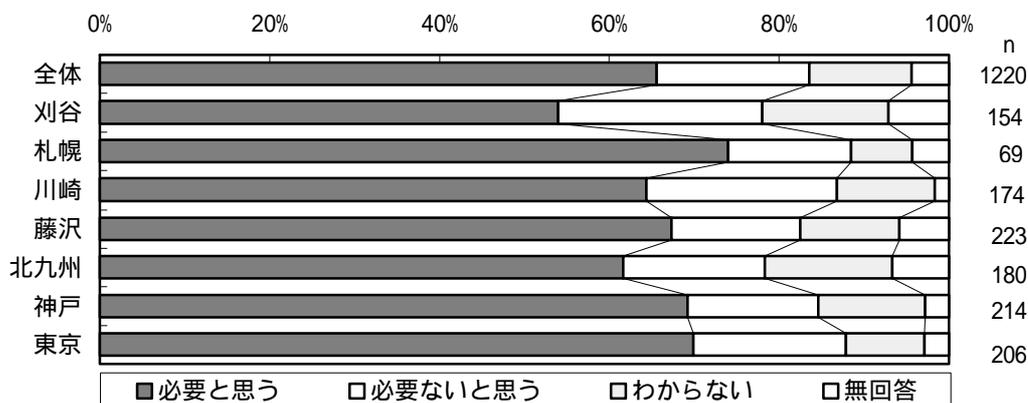


図2.19 P R T Rに係わる意識動向（情報公開：全回答者及び会場別）

(2) 所属別回答者

個別事業所の情報公開の必要性について回答者の所属別で比較すると、NGO、一般国民で「必要と思う」との回答が100%、92%と高く、企業、業界団体では59%、69%と低い傾向にある。反対に「必要ないと思う」との回答は企業で24%、業界団体で21%と他のグループよりも高くなっている。

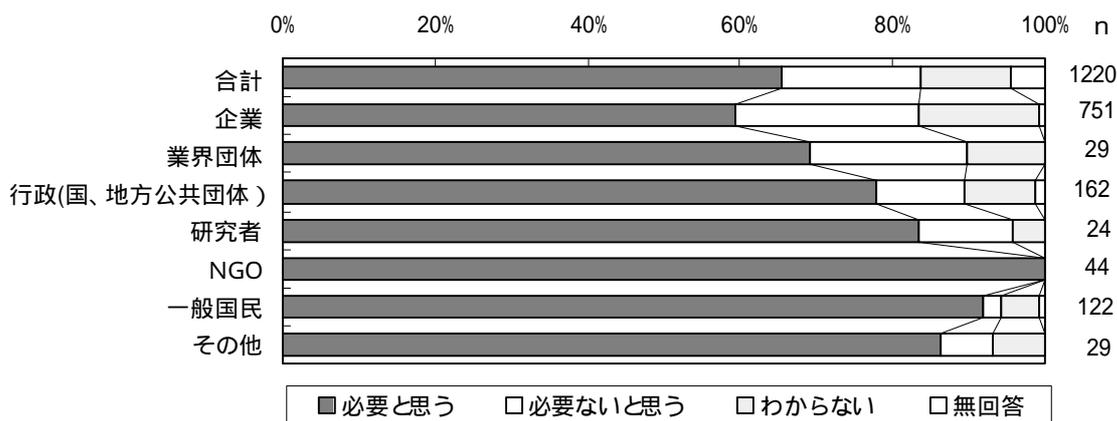


図2.20 P R T Rに係わる意識動向（情報公開：所属別）

(3) パイロット事業参加別企業

個別事業所の情報公開の必要性は、パイロット事業に参加しなかった企業（60%）よりも、参

加した企業（52%）の方が低くなっている。

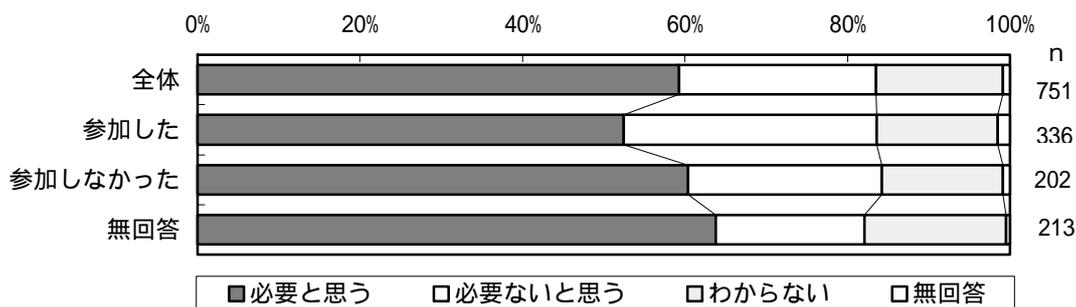


図2. 21 PRTTRに係わる意識動向（情報公開：パイロット事業参加状況別）

2.8 PRTTRの制度化、普及に向けての意見、要望

PRTTRの制度化、普及に向けての意見、要望についてのフリーアンサー形式質問に対して全回答者の約38%（463件）の回答を得た。本設問で得られたコメントの総数は、757件あった。その内容を、「対象化学物質」、「対象事業所」、「報告内容」、「排出・移動量の算定」、「事業者負担」、「支援方策」、「集計」、「情報提供」、「全国展開」、「その他」に分類した。

フリーアンサーの主な意見、要望を次に示す。

1. 対象化学物質

（一般）

製品中に含まれる化学物質も対象にすべきである。（同様意見6件：行政、企業、一般国民）

- ・製品に含まれ使用過程で放出される物質も調査対象になると良い。
- ・環境への負荷という視点から集計すべきである。

対象物質を拡大する。（同様意見5件：企業、行政、研究者、NGO）

- ・環境ホルモンも含めた方がよい。
- ・少量であっても有害性の高い物質は対象にしてほしい。
- ・178物質では少なすぎる（英国並に）。
- ・製造・使用禁止になった物質のストック管理状況も調査する。

副生成物も対象に入れる。

対象物質を絞るべきである。（同様意見2件：企業、研究者）

- ・重要物質に絞るべきである。
- ・食品添加物も含まれており物質の種類に無駄が多い。

対象物質を明確にするためCAS番号を利用する（無機物）（企業）

（個別物質）

金属化合物はすべてを対象にすべきである。（企業）

内分泌攪乱物質も対象とする。（企業）

（選定基準）

化学物質の毒性の尺度が個々にあいまいである。基準を公開する必要がある。（企業）

選択基準を、発ガン性だけでなく、化学物質過敏症の要因等も取り入れる。（企業）

（選定方法）

人に対する有害性のみにとらわれず、生物全体をとらえるべきである。（研究者）

選定基準は多角的に検討すべき。

(変更)

選定方法についても常に見直しが必要。

リスク評価が確定したものだけでなく、不安な物質も入れるようにし、見直しは短期にやっ
てほしい。(一般国民)

(裾切り)

裾切りは設定せず、微量な排出も対象に入れる(同様意見3件:企業、NGO、一般国民)

現状の裾切りでは材料メーカーのノウハウ部分(金属化合物等、樹脂添加剤)のデータは抽
出できないと思う。(企業)

(その他)

今後の知見に応じて内分泌性物質には柔軟に対応してほしい。(行政)

化学物質名がわかりにくい。(企業)

発ガン性は、強度ではなく、発ガン物質である可能性の大きさであることを明示するべきで
ある。(行政)

毒性・暴露量・人体影響との関係を数値的に換算する方法はないのか。(企業)

2.対象事業所

(一般)

中小企業の取扱、把握手法が今後の課題。(同様意見3件:企業、行政、その他)

ハイリスク物質の大量放出企業はヒアリング調査まで行うべきである。(企業)

報告未提出の企業をどうするのか検討する必要がある。(企業)

(個別企業)

例外業種を設けたりしないでほしい。(一般国民)

(裾切り)

中小規模の企業を除外すべきでない。(同様意見4件:行政、NGO、研究者)

裾切りなどの例外は、データの信頼性から望ましくない。(企業)

裾切りは仕方がないといっても、責務規定が欠かせないのではないかと。(行政)

(その他)

SOX、NOXの規制によって既に報告書を出している業種については、あまり必要のない事
ではないだろうか。(企業)

事業者、家庭等からデータが得られるような仕組み作りが大切である。(NGO)

大企業だけでなく中小企業にも制度を広げなければ意味がない。(行政)

対象物質を製造する事業所を量的に調査した方が明確になるのではないかと。(企業)

対象事業所の業種、規模の仕分け方の基準がはっきりしない。(業界団体)

3.報告内容

排出者側のみでなく、生産側のデータともつきあわせていく事が不可欠である。(行政、研
究者)

4.排出・移動量の算定

(1)点源

(推計マニュアル)

混合物からの量を計算するのが困難である。(同様意見3件:企業)

・キシレンにはエチルベンゼンが含有されているため、その割合の算出がわからなかった。
わかりやすいマニュアルにしてほしい。(同様意見3件：企業)

・例題、算出方法の簡略化

対象化学物質の含有量1%以上を5%以上とすればもう少し調査しやすい。

(精度)

精度に疑問をもつ。(同様意見18件：企業、NGO、行政、一般国民)

・テスト的に行ってみたが膨大なデータ収集が必要で現実に出すことができたデータの精度はかなり低いものになった。(企業)

・情報を公開していく以上もう少し精度の高くなる調査を行う必要がある。(行政)

・製造業以外は数値の精度に問題がある。

精度の向上が必要。

・報告・登録された数量が正確かどうかのチェックが必要。(企業)

・強制力、報告データの検討により精度を上げる。(NGO)

・算定精度を向上させる検討が必要である。(企業)

・排出推定値の算定基準に一定の基準を設ける。各企業バラバラではデータの信頼性が低下する。(企業)

・量の把握にマテリアルバランスだけでは不正確である。企業の規模、排出量によっては定量分析も必要。(企業)

・精度の改善は継続すべきである。(企業)

・分析方法と下限(基準)を明確に示してほしい。年何回の測定で年間のデータとすればよいかもわからない。(企業)

・大気、水質への排出量についての推計にある程度の歯止めが必要。

(2) 非点源

(その他)

化学プラントからのファジーなロス是非点源と思われる。(行政)

推計の曖昧さに対するデータの信頼性。(行政)

・推計の割合が多い場合のデータの信頼性はどうか

・推計方法を明確にすること。

年、月、生産量によって変動する排出量の取扱いをどうするのか(企業、一般国民)

ダイオキシンのように環境中にすでに存在しているものの量の把握をどう取り組んでいくのか。難分解性物質など環境中の存在割合を推計し加味するような統計を行っていけないか。

(業界団体)

非点源にもっと重点をおいて集計する必要がある。(NGO)

5. 事業者負担

データの作成には、多くのマンパワー、コストが必要になり、企業にとって負担になる。

(同様意見16件：企業、業界団体)

・データ収集、集計、分析方法で手間のかからない手法の開発が必要。

・測定項目が増えればコストプッシュ要因になる。

・事業者のコスト負担への配慮をしてほしい。

調査は、製造業に限るべきだ。(無回答)

中小企業への負担があまりかからないようにしてほしい。(同様意見3件:行政、一般国民)

6. 支援方策

(成分表示)

化学物質の成分表示の明確化、メーカーの協力。(同様意見9件:企業)

- ・商品名で購入する化学製品の成分が不明
- ・供給メーカーの正確な物質名と含有率が必要。化学メーカー協力が不可欠
- ・物質メーカーの企業秘密で情報が入手できない

M S D S の充実。(同様意見4件:企業)

- ・M S D S に記載された情報では不十分
- ・M S D S を簡単に入手できるようにしてほしい
- ・メーカーのM S D S 提出が不十分

混合物に対応した成分表示。(同様意見3件:企業)

- ・混合物の時、M S D S の一般情報では回答しづらい

義務化も含めた化学製品の成分情報の開示。(同様意見5件:企業)

- ・メーカーの成分情報提供義務化が先行すべき。
- ・混合物の内容表示の詳細を義務化しなければならない
- ・化学製品の成分情報提供の法整備が必要

(技術的支援)

化学物質に関する共通の情報整備及び提供システムの構築。(同様意見3件:企業)

- ・関連情報の共有化
- ・P R T R 対象物質が含まれる製品リストが必要
- ・各製品のコード番号化(製品番号から成分物質が分かる)

P R T R データによる対策効果の検討方法(行政)

- ・対策効果の試算方法
- ・具体的成果の収集・公表

手間、工数のかからない調査、集計方法。(企業)

- ・データ収集、推計方法
- ・共通フォーマットによる年1回の調査に統一

7. 集計

最新データの維持管理にコンピュータ利用によるシステム化が必要である。(一般国民)

量だけでなく、ハザードの評価も実施すべきである。(企業)

8. 情報提供

(提供内容)

結果報告に加えて、物質の毒性等の情報も公開すべきである。

(同様意見4件:行政、NGO、企業、一般国民)

- ・収集データに基づいたリスク分析及び評価も公表してほしい。
- ・複合的に物質が放出される場合の毒性等が知りたい。

情報の公開には、コメントをつけてほしい。(同様意見2件:一般国民、企業)

- ・専門家の科学的、技術的コメント。

個々の物質の削減や代替の方法等についての情報提供してほしい。(企業)

環境ホルモンの切り口でまとめてほしい。(企業)

パイロット事業に取り組んだ企業の事例紹介をしてほしい。(企業)

身近な地域単位など分布のわかる情報が欲しい。(同様意見2件:研究者、企業)

- ・地域マップによる提供。排出と同時にダイオキシンのような物質の蓄積量も提供できないか。
- ・市単位の情報提供

(提供方法)

身近な情報提供。インターネットだけではなく消費者センター等で情報提供(NGO)

(その他)

情報の公開は慎重にして欲しい。(同様意見13件:企業、一般国民、行政)

- ・単に公開すると無用の混乱を招く恐れがある。
- ・混乱を生じないよう事前の説明等を十分に行う必要がある。
- ・情報公開には、リスクコミュニケーション等長期間の準備が必要と考えられる。

分かりやすい説明伝達方法、リスクコミュニケーションの手法を早急に具体化する必要がある。(同様意見7件:行政、企業、NGO)

- ・情報公開の前提としてリスクコミュニケーションが大切。
- ・リスクコミュニケーションに際してNGOの参加方式を確立して欲しい。

9.全国展開(技術的項目以外)

(制度導入)

(早急に)法制化が必要である。(同様意見22件:企業、一般国民、行政)

- ・企業の自主的報告には限界があり制度化が必要。
- ・P R T Rは環境リスク管理の中核的存在になると思うので早急な制度化に向けて努力して欲しい。ダイオキシン、環境ホルモン等の新しい問題にも即座に対応ができるであろう。

できるだけ早く全国レベルの本格的な展開を進め、グローバルな環境対策として官民一体で取り組んで欲しい。(同様意見7件:企業、一般国民)

先進諸外国の動向を見ても必ず導入が必要と思う。(行政)

制度化には十分な時間をかけて検討してほしい。(企業)

制度化には反対。P R T Rの目的にあるように、行政、企業、市民で上手に監視し合い、自主的改善に向かうべき仕組み作りを考えるべきである。(一般国民)

(制度化のあり方)

強制力のある制度を作って欲しい。(同様意見7件:行政、研究者、企業)

- ・事業者の報告の義務付け。
- ・罰則を設ける。

これまでの規制制度とは違ったP R T Rが生かせる制度を作って欲しい。(同様意見4件)

- ・新しい科学的知見を取り込める柔軟性を持たせる。
- ・規制とは違った推進主体(推進主体の変革が必要)
- ・積極的に報告、公表する企業への優遇措置、優良企業の公示。
- ・I S O 14000のようなP R T Rの認証制度の検討。

法制化にあたっては、特例を設けないようにすべきである。(企業)

最終処理の方法、リサイクルなどの努力が反映される(業界団体)

化学物質の排出抑制に向け、設備投資等に資金援助をしてほしい。（同様意見 2 件：企業、NGO）

削減施策に結びつけること。（同様意見 2 件：行政）

- ・企業に自制力（排出抑制）が働く制度にして欲しい。

（他の仕組みとの連携）

ISO14000やレスポンシブルケア活動との連動。（同様意見 7 件：企業）

- ・ISO14000と関連づけて研究したい。

情報公開制度との関係

- ・自治体の情報公開条例、検討されている情報公開法との関連。

既存の法制度とリンクさせて運用して欲しい。

- ・製造物責任との関係はどうか。
- ・制度、報告が重複しないようにして欲しい。
- ・他の法体系との関係。

類似制度（マニフェスト）等があり単独有効な分野での確立が望ましい。（企業）

（個別データの公表）

事業者毎の情報を開示してほしい。（同様意見 24 件：行政、一般国民、企業、業界団体、NGO）

- ・収集されたデータは例外なく公表する。
- ・一時的な混乱も予想されるがここを通過しなければ一般市民に環境リスクといったものを理解してもらえない。
- ・個別事業所毎の情報を公開し、行政、企業、一般市民、NGOのコミュニケーションを持ち、化学物質のリスク削減に取り組むべきである。
- ・個別の生データと加工データの両方を公開して欲しい。

事業所毎の情報公開は行うべきではない。（同様意見 9 件：企業、業界団体）

- ・個別事業所の情報公開をしなくてもデータの活用で効果を上げるように工夫して欲しい。
- ・個別事業所の情報を公開した場合、データの信頼性を損なう恐れがある。
- ・国民の環境リスクに対する理解が進んでいないため、混乱を来しかねない。

精度、信頼性の向上、コンセンサスの形成を待ってから個別情報を提供する。（同様意見 2 件：企業）

（企業秘密）

企業秘密の明確化を望む。（一般国民）

企業秘密を十分考慮してもらいたい。（同様意見 3 件：企業）

- ・公表により生産規模や内容を知られてしまう。

公表による損失を社会的に補填する仕組みの検討（NGO）

（検討過程）

検討状況を公開し、広範な意見集約と反映を望む。

- ・事前に公表されNGOと事業者が議論しあうプロセスが必要
- ・事業者／市民・NGO／行政の十分な検討をお願いする。

検討への参加方式を明確にして欲しい。

- ・国民が参加できる形をどのようにするのか。

・選定メンバーにNGOからの参加も検討して欲しい。

制度化のための今後のスケジュールが知りたい。(同様意見4件：企業)

(その他)

リスクコミュニケーションに取り組んで欲しい。(同様意見5件：企業)

データの一人歩き、社会的な混乱(誤解)を招くことがないように進めてもらいたい。(同様意見2件：業界団体、行政)

自治体、環境庁の役割が大きい。(企業)

・PRTRの必要性やメリットを説明し、地方自治体が積極的に取り組むべき。

・化学品アレルギー、企業アレルギーの現状では企業が独自に情報公開する弊害の方が大きく、環境庁又は自治体への報告制度がよい。

発展的に総合リスク管理への展望も必要ではないか。PRTRを前提とした利用目的について各セクターの議論・合意形成が必要。(一般国民)

PRTRは有用な制度と思われるが、それをどのように展開、応用していくかの明確なビジョンを打ち出す必要がある。

10. その他

(普及啓発)

一般市民への普及啓発が必要である。(同様意見12件：一般国民、NGO、研究者、企業)

マスコミ等での普及啓発を望む。(同様意見3件：一般国民、企業)

企業のインセンティブを与えることが重要である。(同様意見3件：企業)

高校の化学系の教育への啓発が必要である。(NGO)

(その他)

通産省、経団連等のPRTR検討と調整してほしい。(同様意見9件：企業、業界団体)

産業廃棄物業者のマニフェストの精度向上も必要である(排出者も問題)。(企業)

経済活動に及ぼす影響も考慮してほしい。(企業)

2.9 パイロット事業に対する感想、意見、要望

全回答者の中でパイロット事業に参加した企業に限定して、パイロット事業に対する感想、意見、要望についてフリーアンサー形式による回答を求めた。本設問の対象となる回答者は202名で、その内の32%(64名)の回答を得た。本設問で得られたコメントの総数は、138件あった。その内容を2.8と同様に分類した。

フリーアンサーの主な感想、意見、要望を次に示す。

1. 対象化学物質

- ・物質毎に報告最少量を決める必要がある。
- ・発ガン物質しか考えていないのか。

2. 排出・移動量の算定

(推計マニュアル)

- ・バルブやフランジからの漏れなどは、どう考慮すればよいか。
- ・算出精度をどのくらいまで出せばよいかよくわからなかった。
- ・報告マニュアルに従って報告したが、数値が本当に正しいのか、実測データがないので自信がもてなかった。

(精度)

- ・データの信頼性向上についての計画を作ってほしい。
- ・非点源の精度レベルから考えて、排出量の小さい点源からの報告は無意味ではないか。

3. 事業者負担

情報収集に時間がかかった。(同様意見14件)

- ・準備期間が短かった。
- ・大規模な化学工場は、特に時間を要する。
- ・提出書式(様式)はなるべく簡単にしてほしい。

予想したほど負担はなかった。

4. 支援方策

- ・MSDS、成分表の入手が困難であった。
- ・MSDSの統一化を行う必要がある。
- ・FDで提出する仕組みの中で、商品名を入力すれば含有物質がわかるものができれば大変助かる。

5. 情報提供

- ・公開された情報を用いて、リスク評価を行ったPRTTRデータ活用/利用実績、あるいは公表した結果をまとめてほしい。

6. 全国展開

- ・ISO14000シリーズとの関連性に配慮してほしい。

7. その他

- ・わかりやすい広報活動をしてほしい。
- ・専門知識がないので、講習会等をもっと開催してほしい。